

製品名: Tcl1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18741**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	13kDa

抗原情報

遺伝子名	TCL1A TCL1
別名	T-cell leukemia/lymphoma protein 1A (Oncogene TCL-1) (Oncogene TCL1) (Protein p14 TCL1)
遺伝子 ID	8115.0
SwissProt ID	P56279
免疫原	AA 範囲: 30-110 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

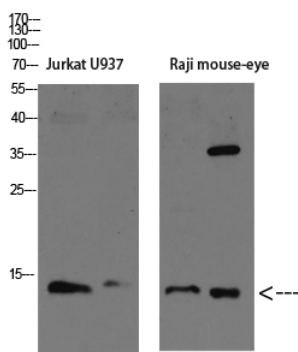
ヒトにおける TCL1 遺伝子の過剰発現は、成熟 T 細胞白血病の発症に関与していることが示唆されており、染色体再編成により TCL1

遺伝子が T 細胞抗原受容体 (TCR) α (MIM 186880) または TCR- β (MIM 186930) 調節エレメントに近接するようになる (Virgilio ら、1998 年[PubMed 9520462]による要約)。正常な T 細胞では、TCL1 は CD4-/CD8-細胞で発現するが、分化後期の細胞では発現しない。TCL1 は、細胞生存キナーゼ AKT (MIM 164730) のコアクチベーターとして機能する (Laine et al., 2000 [PubMed 10983986])。[OMIM 提供、2010 年 7 月],疾患: 慢性 T 細胞白血病 (T-CLL) では、TCL1A を活性化する染色体異常が認められる。転座 t(14;14)(q11;q32); 転座 t(7;14)(q35;q32); 逆位 inv(14)(q11;q32)は、T 細胞受容体 α/δ 遺伝子座に関連する。機能: AKT1、AKT2、および AKT3 のリン酸化および活性化を促進する。AKT1 の核移行を促進する。細胞増殖を促進し、ミトコンドリア膜電位を安定化させ、細胞生存を促進する。類似性: TCL1 ファミリーに属する。細胞内局在: ミクロソーム分画。サブユニット: ホモ二量体。AKT1、AKT2、および AKT3 と (PH ドメインを介して) 相互作用する。PNPT1 と相互作用するが、この相互作用は PNPT1 エキソヌクレアーゼ活性に影響を与えない。組織特異性: T 細胞系譜において、未熟胸腺細胞および活性化末梢リンパ球に限定される。T リンパ球および B リンパ球分化の初期段階で優先的に発現する。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; 癌感受性; プロトオンコゲン; 癌; 癌タンパク質 / 抑制因子; 癌タンパク質; 転写因子

画像データ



K562 マウス肺ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。